

## ■ご挨拶

2021年2月26日寄稿



### 双松会 会長 金津任紀（16期）

春爛漫、桜の季節を迎え、近畿双松会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は双松会の事業の運営、活動に格別のご協力をいただき心より感謝を申し上げます。

昨年来、二度にわたる緊急事宣言が発出された新型コロナウイルス感染症の影響により、この一年、貴会で計画されていた様々な事業も中止や見直しを余儀なくされ、大変なご苦勞があったことと推察いたします。

一昨年の12月に中国武漢で確認された新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、これほどまでに人類を苦しめるとは誰が想像したでしょうか。予期せぬパンデミックは世界中を混乱の渦に巻き込み、いまだ終息を見通せない状況です。この上は一日も早くワクチン接種と治療薬の開発が進み、そして、当たり前の日常が戻ってくることを願う次第です。

外出や会員同士の触れ合いの機会が失われ、会員の皆様におかれましては、さぞ息苦しい生活を強いられておられることと、あらためてお見舞いを申し上げます。週末は「どこへ行こう」「何をしよう」という思考回路が変わるのは私だけではないかもしれません。

コロナ感染症は人を遠ざける厄介な疫病で、ステイホームによって自宅にとどまる時間が長くなれば、運動不足やストレスで心身ともに健康面での悪影響も心配されます。くれぐれもご自愛のほどお祈りいたします。

しかし、耐えるだけで思考停止になっていては、時間を浪費するだけです。新たな生活様式や感染防止策を徹底し、常に笑顔で前向きに、むしろウィズコロナを前提に、一度だけの人生を楽しく有意義に過ごすために仲間や地域とどう生きるか考えることが大切だと思います。

今年の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公で新一万円札の顔、渋沢栄一の人生訓「不自由を世の常と思えば、別に苦情も起こらなければ くだらぬ心配も起こるはずがない。かくてその志とところの事に従うがよい」という言葉を教えに、思い通りにならないことが普通ときめて身を処すことで、明るい未来が開けてくるに違いありません。

そして、こんなときだからこそ同窓の絆の大切さを考えたいものです。双松会の会員は全国に散らばっています。毎日、NHKのニュースで全国の感染状況が報道されるたびに、会員の安否が気にかかります。コロナ禍を契機に同窓会の形も変わるかもしれませんが、北高のDNAを共有する者同士が励まし合い協力し合うという「共助」の精神を今後ますます大切にしたいと思います。

ちょうど今年からホームページも立ち上げ、双松会の事業や会員の情報はもとより母校北高のホットな情報をお届けできればと思っています。

同窓生同士のご縁を大切にして、よりよい交流の機会へと充実させ、これを活用していただくことで会員の皆様の人生がより豊かなものになることと確信しています。

先の見えない世の中、新型コロナウイルスという未知の難敵に遭遇し人々は不安を抱えています。人間関係が希薄になりつつある現代社会ですが、つながりこそが人が人を支える根幹です。同窓生

の縁（えにし）の糸をしっかりと結び大切に育てていきたいものです。その一助としてホームページを活用していただければ幸いです。

地元島根はおかげさまで感染が抑えられ、母校北高の生徒も万全な感染対策のもと元気に勉学にクラブ活動に頑張っています。

松江では高校の通学区制が今年から廃止され、より学校の独自性やアイデンティティが問われることとなります。文武両道、質実剛健の「不易」を引き継ぎ、新しい時代にマッチした学校づくりが始まろうとしています。

どうか、近畿双松会の皆様におかれましても、遠い関西の空の下から学校や後輩諸君にエールを送ってやっていただきたく存じます。

今年11月には「創立145周年記念」事業が予定されています。その際には、コロナ禍が終息し、たくさんの皆さんと再会できることを楽しみにしております。

最後に、今日の生きづらい世の中にあって、力になる言葉を一緒に噛みしめたいと思います。

「あおいくま」

あ・・・あせるな

お・・・おこるな

い・・・いばるな

く・・・くさるな

ま・・・まけるな